

地域医療を守る岩手県連絡会 ニュース

2020年3月4日

No.4

発行：地域医療を守る岩手県連絡会

事務局：盛岡市内丸11番1号

岩手県医療局労働組合

電話 019-623-8271

FAX 019-623-8273

URL <http://www.iwate-ken-irou.org/>

地域医療の在り方を議論

「地域医療を考えるシンポジウム」を開催

胆江労連主催、岩手県・奥州市が後援



地域医療について考えを述べるパネリスト

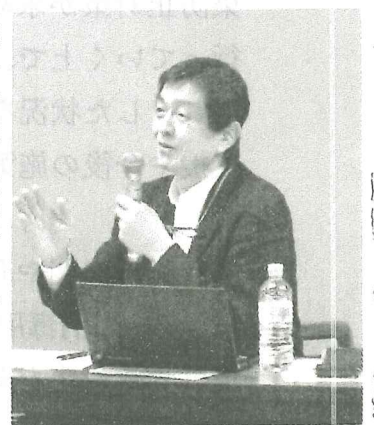
佐藤課長は県の地域医療構想を説明し、「本県はすでに一定の見直しが必要です。直ちに大幅な見直しを求めるものではない」と説明。小沢市長は「医療資源を生かし、今後望まれる医療・介護体制の構築と一緒に考えたい」と述べました。市民代表の佐々木さんは「市民が生涯に渡って頼りにしている病院。市民のいのちと健康を守る病院をこれ以上減らさないでほしい」と望みました。看護師の千葉さんは自らの厳しい職場実態を報告し、「地域医療密着型の医療が求められている。医師・看護師不足を解消しなければ、現在の機能・体制は保てない」と訴えました。



奥州市内外から約200人が参加

2月29日、奥州市Zホールで胆江労連主催の「地域医療を考えるシンポジウム」が開催され、市内外の住民や医療従事者など約200人が参加し、地域医療の在り方や今後の課題について意見を交わしました。

基調講演では、本田宏さん（医療制度研究会副理事長）が「守ろう！医療はライフライン」と題して講演しました。本田さんは「医師は地域偏在ではなく、絶対数が不足している」と強調し、「再編・統合」を名指しされた岩手県内の10の公立・公的病院にもふれながら、働きやすい医師の労働環境を整備することや医療クラークなど医師業務の一部をカバーできる職種を増やすことの重要性を示しました。最後に「医療現場も行政も前向きに活動した



基調講演の本田 宏氏

上で、市民も応援するからとのスタンスで病院を守るよう、地域から声をあげていくことが大事」と話されました。

パネルディスカッションでは、県保健福祉部医療政策室担当課長の佐藤直樹さん、小沢昌記奥州市長、患者代表の佐々木卓さん、医療労働者代表で県立江刺病院勤務の千葉紀美子さんがそれぞれ立場から発言しました。

県立東和病院玄関前署名57筆集約！ 「病院が無くなったら困る」の声多数

2月27日、地域医療を守る連絡会は「再編・統合」が必要と名指しされた東和病院の玄関前で署名行動を行いました。地域労連などの協力もあり、約2時間で57筆の署名を集約しました。

